

こころ育てる絵本との出会い

マが'ちゃん通信

2016 12 - 2017 1 vol. **41**

絵本原画展

柿本幸造

特集 国際交流



絵本原画展

かきもと こうぞう
柿本幸造

ひだまりのように温かい
「子どもの世界」を
描きつづけたひと



『おかあさんとこどものえほん』(チャイルド本社/1997年12月号)より
写真/内藤 裕

柿本幸造(かきもと こうぞう) プロフィール

1915年広島県生まれ。
「どんくまさん」シリーズ(蔵書千鶴子/文 至光社)の挿絵をはじめ、月刊絵本や絵本の画家として活躍。
1959年小学館絵画賞を受賞。ユーモラスでほのぼのと温かい絵が、多くの人に愛されている。
主な作品に「どうぞのいす」(香山美子/作 ひさかたチャイルド)、「しゅっぱつしんこう!」(三田村信行/作 小峰書店)などがある。国語教科書の「くじらぐも」の挿絵は1971年より掲載が続いている。
1998年没。

絵本原画展開催

平成28年12月1日(木)～平成29年1月29日(日)

原画展示絵本



『かえってきた はくちょう』(作/花岡大学 ひかりのくに)
けがをしたはくちょうは、おさむの手当てのおかげでシベリアへ帰っていきました。次の年の冬、おさむは「たろう」と名付けたはくちょうが帰ってくるのを待ちわびていました。



『てぶくろをかいに』(作/新美南吉 講談社)
「おかあちゃん、おててが つめたい、おててが ちんちんする。」ぼたん色になった子ぎつねの手を見て、かあさんぎつねは毛糸のてぶくろを買ってあげたいと思いました。そこで子ぎつねの手を片方だけ人間の手に変え、お金をにぎらせて町へと送り出しますが…。



『柿本幸造 絵本画集 ひだまりをつくるひと』(学研)
生誕100周年を記念して制作された画集。代表的な絵本原画のほか、初期の月刊絵本の挿絵も多数収録。生前に行われたインタビューや素顔を知る人のエッセイ、アトリエ風景も掲載。

冬のギャラリーでは、『てぶくろをかいに』と『かえってきた はくちょう』の2冊の他、
『柿本幸造 絵本画集 ひだまりをつくるひと』に掲載の作品を数点ご紹介いたします。

学研プラスの
長峯宣子さんに
インタビュー



柿本幸造先生はどんなお人柄でしたか?

残念ながらお会いしたことはないのですが、先輩編集者たちの話では、とても優しく控えて、茶目ツツ気があって、ご自分の絵に對してはとても厳しい方だったようです。特に絵に関しては、納得のいく絵が描けるまで編集者に絵を見せなかったとか。けつして妥協しない厳しい姿勢をお持ちでした。

『柿本幸造 絵本画集 ひだまりをつくるひと』の制作秘話や思い出を教えてください。

初めて柿本さんの原画を見たのは、2010年の暮れでした。柿本さんが亡くなってから、ご長女の眞智さんが偲ぶ会を開いてくださったのです。そこで見る柿本さんの絵は印刷されたものよりもずっと温かく、ユーモラスで、子どもへの優しいまなざしが感じられました。また柿本さんの絵が見たい、そんな思いにとらわれていたとき、2015

もし柿本先生がご存命でしたら、今ごろどんな絵本をお作りでしたでしょうか?

柿本さんと親しかった先輩編集者が、「柿本さんはいつも、こういう絵だったからおもしろがつくれるかなと、子どもたちに真剣に臨んでいた」と言っていました。だからこそ柿本さんの絵には、はっとするようなユニークな構図や色遣いがあるのかもしれない。生きていたらきっと、子どもたちを楽しませるような作品をたくさん描いていらしたと思います。

柿本先生のお宅へ伺った際の思い出や印象深いできごとを教えてください。

画集の準備のため柿本さんの自宅に伺ったとき、眞智さんに思い出話を聞くのが楽しかったです。お庭が見えるダイニングに大きな木

のテーブルがあつて、いちばん奥の椅子が柿本さんの場所。絵が仕上がるまで編集者に外をぶらぶらしてきてと頼んだこと。おいしい魚が好きで、毎日地元の魚屋さんに届けてもらっていたこと。家の造作に工夫を凝らすのが好きだったこと。人間味あふれる柿本さんの姿がありありと浮かんできて、惹きつけられました。

柿本先生のファンの皆さんへメッセージをお願いします。

柿本さんの絵の子どもや動物たちは、どれも子どもたちの気持ちやしぐさをよく映しだしていて、見る人をなごませてくれます。今回展示される『てぶくろをかいに』『かえってきた はくちょう』の主人公も、幼い子の懸命な気持ちが伝わってきて魅力的です。柿本さんが描きだした幼い子の気持ちに寄り添って、作品を楽しんでもらえたら嬉しいです。

長峯さん、ありがとうございました!

柿本幸造先生の絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283
射水市鳥取50 射水市大島絵本館
柿本幸造 絵本プレゼント係
締め切り 平成29年2月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『かえってきた はくちょう』(ひかりのくに)

※表紙『てぶくろをかいに』(講談社)より

特集 / 国際交流



岡本 昭彦
陶房「匠の里」施設長
元射水市大島絵本館事務局長

「絵本」と生涯の趣味「アマチュア無線」

マグちゃん通信の執筆。数年前に依頼された時は仕事が忙しく、丁寧に断り申し上げたのですが、今回はさすがにお断りする理由もなく引き受けてしまいました。いざ書き始めようと机の前に座るも、テーマが浮かんでこない。絵本館から異動してもう10年以上経ち、このような執筆には縁がなく頭痛い。そこで何か良いテーマが思い浮かばないかと、絵本館に勤務していた頃の写真を見ていたら1997年9月に「ブラチスラバ世界絵本原画展（通称BIB展'97）」のセレモニーに招待され視察に行った時の写真が目にとまりました。ガリィ等の東欧諸国でした。

話題を少し変え、私の趣味について書かせていただきます。私の趣味はアマチュア無線です。私は小学6年生からラジオ作りに興味を持ち、ひとつひとつ部品を集め自分でラジオを組み立て、外国の放送を聞いていました。これが中学3年生になった頃には聴くだけでは物足りず、行ったこともない外国の人と喋りたくて、アマチュア無線の免許を取得しました。そして60歳を過ぎた現在も寝る時間を惜しんで外国の無線家との会話を楽しんでいます。

アマチュア無線の短波帯によるヨーロッパの国々との交信は意外と容易で、これまでバチカン市国のような小さな国も含めてヨーロッパ全ての国々と交信しました。何千局と交信した局の中には、私が訪れたスロバキア、ブルガリア、ハンガ

リーの無線家も沢山います。

私の趣味について述べたので、ここで皆さんが疑問に思っておられる「絵本」と「アマチュア無線」の関係についてお話しします。それは私が1997年にスロバキアを訪れた数年後のことです。スロバキアの無線家と交信していると、彼は自分も首都ブラチスラバで開催された「BIB'97」のセレモニーに出席していたというのです。この奇跡に近い偶然には私も驚きました。が、彼は私以上に驚いていました。私の拙い英会話で正しければ、彼は61歳（交信当時）で市内の出版関係の会社に勤めており毎回セレモニーに招待を受けているとのことでした。今思えば会社の偉い方だったかもしれません。彼は「機会があれば是非妻と絵本館に訪れたい。日本へ行った時に案内してくれるか」と質問してきました。私の趣味を通じて絵本館の情報が広く世界に発信できるのであればと思い快諾しました。そして日本での再会を約束して深夜の交信を終了したのでした。

しかし現在未だこの再会は実現されていません。再会が実現したときは「絵本とアマチュア無線で実現した国際交流」として約半世紀続いているアマチュア無線の素晴らしい世間に自慢できるのですが、いつかその日が来ることを信じて、私は今日もマイクロフォンの向こうにいる遠い国の無線家へ呼びかけています。[OM2A△○] this is JA9G□□ Over.]...

私のおすすめ絵本

『アンジェール ある犬の物語』

ガブリエル・パンサン / 作
BL出版

疾走する車の窓から投げ捨てられた犬の長い息を吐いた字のない絵本。1本の鉛筆で描かれた迫真のデッサンがずっしりと心に迫る。



『すみれ島』

今西祐行 / 文
松永祐郎 / 絵
備成社

太平洋戦争で特攻に散った若者たちと小学生の交流を描いた絵本。語り継いでいくべき物語。



『お月さまってどんなあじ?』

マイケル・グレイニエツ / 絵と文
いずみ ちほこ / 訳
らんか社 (旧セーラー出版)

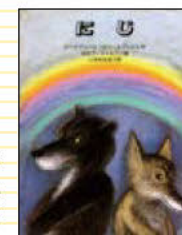
お月さまを一口かじってみたい動物たちが次々に自分の背中に他の動物をのせていき、とうとう…。繰り返しのリズムも楽しい夢のある絵本。



『にじ』

ジークフリート・ベール・プレヒト / 作
ヨゼフ・ウィルコン / 絵
いずみ ちほこ / 訳
らんか社 (旧セーラー出版)

友好なクマの国とオオカミの国が消えた虹をめぐってあやや戦争に! 来館以来交流を続けているウィルコン氏の代表作。



『ゆうたはともだち』

きたやま ようこ / 作
あかね書房

繰り返したシンプルな言葉と絵で犬と幼児の対比を描く。全然違うけど友だち…大切なことをまっすぐに伝えてくれる絵本。



『クリスマスの12日』

ロバート・サブダ / 作・絵
うえの かずこ / 訳
大日本絵画
Copyright©1996 by Robert Sabuda

カラフルな背景に白を基調としたとびだすしなやかな線が引き立つ。開く度に驚きと感動を覚える豪華絵本。



イベントレポート①

全国絵本ミュージアム会議 9/11

全国の絵本関連施設、出版社、関連団体が集まり今回初めて射水市で開催されました。午前の開会式に続き開催された谷川俊太郎さんと松本徹さんの記念トークでは満員の来場者が詩のボクシングから始まった谷川さんの言葉の面白さのお話に耳を傾けました。午後のシンポジウムでも、絵本関連施設の代表者が各館の特徴と今後の展望について、意見を交換し大変有意義なシンポジウムとなりました。当日は親子連れがワークショップで無料のしかけ絵本づくりを体験する姿も多くみられました。



詩人の谷川俊太郎さん(左)と福音館書店の松本徹さん(右)



上/記念トークの様子
下/シンポジウムの様子

イベントレポート②

第11回絵本館まつり 8/21

年間を通して最も来館者の多い「絵本館まつり」。今年は9000人のご家族連れが遊びに来てくれました。特別価格の絵本を選ぶ大人や、緑日コーナをめぐる小学生、タイル工作を楽しむ親子など、それぞれがお目当ての場所であつたりを満喫。そしてなんと言ってもメインイベントはシアターのステージショー。ピエロのバット君のコミカルマジックや、ジャック・ランダルさん



の影絵パフォーマンスが行われ、夢とユーモアあふれるエンターテイメントに拍手喝采、「また来てね!」との歓声が沸き上がりました。開館記念日に近いこともあり、日頃の感謝の気持ちを込めて行われる「絵本館まつり」。来年はどんなおもてなしをしようかと今からアイデアをします。来年もどうぞお楽しみに!

創作教室レポート

第4回「しゅわしゅわしゅわっ」 9/24・25

「ラムネって自分でつくれるの?」そんな驚きの声も上がった今回の創作教室。実はとても簡単なんです。粉砂糖、コーンスターチ、クエン酸、重曹、レモン果汁をビニル袋に入れてもみもみこねこね。さらに食用色素を加えてカラフルに。ペットボトルのキャップや計量スプーンを使って形をつくるころでは、ポップシュガーを飾ったり色を混ぜてマーブルカラーにしたりと工夫をこらしてオリジナルラムネづくりを楽しみました。「ラムネは苦手だけど自分でつくったら美味しかったよ」という嬉しい声も。手づくりってステキですね。



あまずっぱくてしゅわしゅわわして
いておいしかったです。
(かなさん・6歳)

トッピングやラッピングですごく
かわいくなりました。
(あいこさん・11歳)

※創作教室は親子で「つくる」ことを楽しむ教室です。登録家族募集中!

2・3月イベント

シアター・パフォーマンスホール
絵本プレゼント
■とき/2月11日(祝・土)
※ご来館のご家族に1冊、絵本をプレゼント。

人形劇団ひとみ座
「カラスとおともだち」
■とき/3月12日(日) 14時~15時
■料金/大人1500円・小人600円

春・おめでとうキャンペーン
■とき/3月18日(土)~3月26日(日)
入館料の割引やガラポン抽選会など
楽しい企画がいっぱい。

香川元太郎 迷路あそび&サイン会
■とき/3月25日(土) 14時~15時30分
カフェギャラリー
■とき/2月23日(木)~3月12日(日)

Ran candle 火のありがたみ
■とき/2月4日(土)~2月22日(水)
さくら工房作品展
■とき/2月23日(木)~3月12日(日)

ハンドメイド雑貨3人展
■とき/3月14日(火)~3月30日(木)

ギャラリー

香川元太郎 絵本原画展

■展示原画

「お化けの迷路」「水の国の迷路」
(ともにPHP研究所)



寄贈絵本のご紹介

ご寄贈いただいた最新絵本の中からスタッフのおすすめの絵本をご紹介します。



『まるまる みっけ』
アンディ・マンズフィールド／作
奥住秀之／日本語版監修
ひさかたチャイルド



『こうさぎとほしのどうくつ』
わたり むつこ／作
でくねい／絵
のら書店



『かあかあ もうもう』
丹治 匠／作
こぐま社



『ラマダンのお月さま』
ナイマ・B.ロバート／文
シーリーン・アドル／絵 前田君江／訳
解放出版社



『野菜忍列伝 其の五
風雲しようが丸』
川端 誠／作
BL出版



『げたに ばける』
新美南吉／作
西村敏雄／絵
鈴木出版



『アイヌのむかしばなし ひまなこなべ』
萱野 茂／文 どいかや／絵
あすなろ書房

アイヌの人達は、あらゆるものに魂が宿っていて、それらはみな神様だと信じていました。この絵本だけでも、くまの神、矢の神、山の神、火の神、小鍋の神の名前が登場します。くま送りという儀礼を通して、くまの神がどんなものも粗末にせず大事に扱うことの大切さを教えてくれます。色鉛筆で丁寧に描かれたアイヌの料理や衣装と、どこかかわいらしいくまの神をぜひご覧ください。

絵本館日記



9月22日(木)

富山市ファミリーパークにおいて「いのちの集い」が開催されました。今年もおすすめの読み聞かせ絵本やとびだす絵本の工作キットを携えての参加です。雨模様にもかかわらず、会場は親子連れで大賑わい。身の回りにあるいろいろな「いのち」、その大切さや尊さ、つながりを感じ取ることができたでしょう。

9月24日(土)

「みやこしあき」絵本原画展の幕開けです。「アノはつびようかい」(ブロンズ新社)では紙のテクスチャに木炭の濃淡が合わさり、繊細で豊かな世界が描かれます。基本色は黒と赤に抑えたシンプルな色味は、発表会の舞台袖から見ると暗がり、それらがスポットライトで照らされる晴れの舞台の緊張と夢心地を、鮮烈な印象とともに観る者の心と呼び起こします。

9月24日(土)

「おしま手づくり絵本コンクール」参加作品展がはじまりました。園児から高校生まで総数909点の作品が集います。それぞれが世界で一つだけの特別な絵本です。ところ狭しと並ぶ表紙の一つ一つから、若い絵本作家たちの思いが立ち上ってきます。展示会場に足を踏み入れ、本の波の中、家族を自分の作品の前に案内する姿は誇らしげで、微笑ましいものです。

10月1日(土)

カフェギャラリーにて「田村紀子 絵画展―旅のスケッチ―」が初日を迎えます。作者が巡った5大陸の旅の景色が、あざやかな色使いで描き出されます。オーストラリアの聖地エアーズロックを描いた「灼熱の大地」は、荒々しいタッチと力強い赤で観る者の目を焼きまします。山岳仲間で結成されたグループ「おりひめ」(越田勝子代表)によるオカリナの演奏会も開催されました。

10月13日(木)

バフォーアンスホールにて「にじいろのすず」絵本原画展がはじまりました。当作品は「第3回全国手づくり絵本コンクール」(当館主催)の最優秀賞作品です。ペンで描かれた人物や街並みはシンプルながらも、色鉛筆や水彩によって繊細なグラデーションを施され、見る者の心にと入り込んでいきます。

(記録・鳥)

利用案内

開館時間 9:30～17:30

休館日 毎週月曜日(祝日の場合翌日)
月1回資料整理日
年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 大人510円、中学生310円、小学生100円
※団体20名以上は割引あり 団体幼児はひとり50円
※各種福祉手帳をお持ちの方は無料

交通案内 北陸自動車道小杉ICより車で10分
富山ときと空港より車で40分
あいの風とやま鉄道小杉駅より車で5分
※新幹線はJR富山駅下車
富山地鉄バス・富山高岡線「赤井口」下車徒歩7分

駐車場 約60台

個人フリーパス 年間1000円
親子フリーパス 射水市在住で、小学生未満のお子様の保護者の方は無料
いみず子どもフリーデー 射水市在住の小学生は土・日・祝日に限り無料

貸館 カフェギャラリー、シアターは貸しスペースです。個展、コンサート、発表会などにご利用ください。

講座 絵本作りや読み聞かせ、講演などの出前講座を行っています。



空に浮かぶ舟のようだ。



射水市大島絵本館
OSHIMA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

マグちゃんは絵本館のシンボルマークです

〒939-0283 富山県射水市鳥取50
TEL 0766-52-6780 http://www.ehonkan.or.jp
FAX 0766-52-6777 E-mail ehonkan@po9.canet.ne.jp